

## 消費者向けネットワークスライシング

### シンガポールSingtel、Tencent Gamesと5Gクラウドゲームで提携

両社は、5Gネットワークスライシング技術を活用しクラウドゲーム「Honor of Kings・Cloud」を提供すると発表した。10月に試験し、11月に提供開始する。  
 <活用技術>

- **URSP**(User Equipment Route Selection Policy) **を通じたアプリベースのスライス**：ユーザーデバイス上のクラウドゲームアプリに関連する全てのトラフィックは、優先順位付けされたネットワークレーンを経由して自動的にルーティングされるため、よりスムーズな接続が保証される(対応端末が必要)
- **5G Advanced Latency Priority Scheduling**：プレイヤーのコマンドやゲーム内のアニメーションなど、即時性が求められるゲームデータを識別して優先順位をつけ、リアルタイムのゲームプレイにおける遅延を低減

<ネットワークスライシングの利点>

- 専用の低遅延機能を提供することで、自宅や移動中のプレイヤーによりスムーズで競争力のあるゲームプレイを可能にする
- IoTデバイスのリアルタイム処理を強化し、スマートグラスの生成AIをサポートする

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

## 鉄道モバイル通信システム

### Nokiaとドイツ鉄道、5G SAコアを搭載した世界初の1900MHz 5G鉄道ネットワークを展開

目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 鉄道モバイル通信システムに関して、従来のGSM-Rから次世代システムFRMCSへのスムーズな移行支援のため。5G SA網はFRMCSの仕様に対応し、その基盤として機能する</li> <li>• 鉄道のミッション・クリティカルなニーズに対応</li> </ul>
展開状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ドイツ・エルツ山地のデジタル鉄道試験場に導入され、実際の列車で稼働中</li> </ul>
技術・機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1900MHz(n101) 帯域を使用した5G SAネットワーク</li> <li>• Nokiaの無線アクセスネットワークプロダクトAirScaleポートフォリオを採用</li> <li>• 高い可用性と効率を確保するフェイルオーバー機能、自己修復機能、リアルタイム監視</li> </ul>



©ドイツ鉄道

## スポーツイベント運営支援

### 米T-Mobile、公式通信プロバイダーとしてLA28オリンピック・パラリンピックにおいて、大会運営を支援

<LA28で提供予定のサービス>

- **5Gエリア強化**：南カリフォルニア全域および110以上の拠点(競技会場40以上含む)に**プライベート5G、公衆網を組み合わせたハイブリットネットワークなどを導入**。大規模イベントでも安定した通信を確保し、リアルタイムの情報共有を可能に
- **イベント運営効率化**：15000人以上のスタッフに**プッシュ・トゥ・トーク(PTT)機能を含む5G対応通信サービスを提供**。ネットワークスライシングなどの新技術の活用により、POSやチケット管理などの業務システムによる高速で安定した処理を支援
- **放送**：国際放送センターと競技会場間のセキュアで低遅延な通信により、映像伝送を支援
- **次世代テクノロジーの展示**：**AI活用データソリューションにより、運営効率・ファンエンゲージメント・環境への取り組みを強化**



## 非地上ネットワーク

### グローバルモバイルサプライヤー協会(GSA)、非地上ネットワークの進展を報告

非地上5G網および衛星通信の状況(2025年8月時点)

提携件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>通信事業者と衛星企業の提携発表数は、80の国・地域において170件</li> <li>Starlinkが44件と最多。AST SpaceMobileとLynkがこれに続く</li> </ul>
商用化・トライアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>25市場で34の通信事業者が商用化</li> <li>スマホと衛星が直接通信するD2Cは、12件商用化済、24件のトライアルまたは公的に認可されたプロジェクトが進行中</li> </ul>
周波数	<ul style="list-style-type: none"> <li>Kaバンドが最も広く使用されている</li> <li>LバンドとSバンドはD2Cアプリケーションにますます重要になっている</li> </ul>
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>農村部と企業向けブロードバンドが依然として支配的なアプリケーションであり、全提携件数の半数を占めている</li> </ul>

GSA会長は「衛星通信対応スマホは増加しつつある。衛星サービスがニッチからメインストリームに移行しつつあり、ブロードバンドとD2Cでは力強い成長が期待され、IoTアプリケーションでは緩やかだが着実な拡大が期待される」と述べている。

下線部分のリンクを開くと、外部サイトの出典、参考記事が表示されます

## 6G

### 独DT率いる6Gプロジェクトが終了。多様な航空機が混在する空でのドローン衝突防止などを実証

6G NeXtプロジェクト概要

期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022～2025年</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>6Gネットワークの次世代アーキテクチャコンセプトの探求</li> </ul>
参加、支援体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>DTが主導し、独連邦研究・技術・宇宙省が支援。NVIDIA、ベルリン工科大学、DFKI、Fraunhofer研究所など、産業界・学术界・公共機関が幅広く参加</li> </ul>
実証技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>高性能ブローカー：クラウド・ネットワークリソースを複数プロバイダー間で自動調整</li> <li>ポリュメトリック・ビデオ会議：リアルな3D映像のリアルタイム伝送</li> <li>ドローン衝突防止システム：低遅延・分散コンピューティングによる航空運用</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規技術に関する欧州特許出願</li> <li>23件の研究論文発表</li> <li>欧州「6G Platform」白書への貢献</li> <li>50以上のイベントで成果を公開</li> </ul>

### 米Verizon、6Gイノベーションフォーラムと6Gラボを設立。AI対応の6Gが実現する未来を形作る

Verizon 6G Innovation Forum概要

パートナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ericsson、Samsung、Nokia、Meta、Qualcomm</li> </ul>
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンで多様な6Gエコシステムを確立し、グローバルな連携を通じて6Gの基盤技術を開発する</li> </ul>
注力分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな周波数帯域の試験：6Gの可能性を最大限に引き出す</li> <li>標準化団体との連携：3GPPなどと協力し、業界全体の相互運用性を促進</li> <li>6Gラボの設立：ロサンゼルスを皮切りに「Verizon 6G Lab」を設立し、パートナーが実環境で技術を検証可能とする</li> </ul>
Verizonのビジョン	<ul style="list-style-type: none"> <li>5G Advancedを基盤に6Gに向けAIやウェアラブルなど新しい体験を創出していく</li> <li>AIを活用したネットワーク最適化を10年以上継続しており、6Gでもその取り組みを加速。</li> <li>AIワークロード管理の為のAI Connect戦略とインテリジェント・エッジ技術により、企業のAI活用を支援。</li> </ul>